

ロイヤルエンフィールドは大阪・東京モーターサイクルショーで 2台の新型モデルを国内初披露。ブランド創立125周年を祝う。



- 125周年を記念した「CLASSIC 650 125TH YEAR ANNIVERSARY SPECIAL EDITION」を参考出品
- ブリット・シリーズの最新モデル「BULLET 650」を参考出品

2026年3月20日：中型モーターサイクルセグメントのグローバルリーダーであるロイヤルエンフィールドは、第42回大阪モーターサイクルショー2026にて、EICMA2025(エイクマ/ミラノ国際モーターサイクルショー)で発表した「CLASSIC 650 125TH YEAR ANNIVERSARY SPECIAL EDITION (クラシック・ロクゴーマル・125周年記念スペシャル・エディション)」と「BULLET 650 (ブリット・ロクゴーマル)」を国内初披露(参考出品車)。ロイヤルエンフィールドがラインナップする全モデルとともに展示しました。この2台の新型車を含む全ラインナップは、3月27日から始まる「第53回東京モーターサイクルショー2026」にも展示いたします。

アジア太平洋地域事業責任者である Manoj Gajjarlawar (マノジ・ガジャールワール) は、この2台の新型車の発表について次のように述べています。

「ロイヤル・エンフィールドは、世界中のライダーに真のモーターサイクルを届けるべく、絶えず努力を重ねてきました。そして日本市場においては、乗りやすく、扱いやすいロイヤルエンフィールドの車両は広く受け入れられ、また日本のライダーとともに共有した特別な体験によって存在感を高めました。その結果、日本におけるロイヤル・エンフィールドの歩みは驚くべきものとなり、現在では国内の輸入バイクブランド Top5 入りを果たしています。今回発表した BULLET 650 と CLASSIC 650-125 周年記念スペシャルエディションを通して、ロイヤルエンフィールドの歴史を日本のライダーの皆さんとあらためて共有するとともに、日本におけるロイヤルエンフィールドの新章のスタートを祝うモデルになると信じております」

■ CLASSIC 650 125 周年スペシャル・エディション (参考出品)

1901年に誕生した最初のロイヤルエンフィールドから続く125年の系譜を祝し、ブランドの象徴ともいえる CLASSIC シリーズの特別モデルです。

ティアドロップタンクとヘッドライトナセルという、約1世紀にわたってロイヤルエンフィールドのモーターサイクルのデザインを定義してきたディーテールとフォルムを受け継ぎながら、ブランドと CLASSIC シリーズ双方のヘリテージに敬意を表したデザインを採用しました。燃料タンクには金のエンブレム「125 YEARS」をあしらひ、クラシックレッドの上にハイパーシフト塗装を施しました。この塗装は、光の角度によって赤から金、明から暗へとその表情が流れるように変化し、角度によって印象が変わるようダイナミックに仕上げました。この万華鏡のような独特な塗装は、ロイヤルエンフィールドが持つ「伝統と進化の融合」の象徴として開発しました。

※発売時期／価格：未定



■ BULLET650 (参考出品)

1932年以來、BULLETは耐久性と信頼性の象徴であり、常にその魂を失うことなく進化を重ねてきました。その伝説は、世界的に高い評価を受ける我々ロイヤルエンフィールドの、排気量650cc並列2気筒エンジンを搭載することで、かつてないほどの力強さと個性を備え、新章を刻みます。

94年もの間、BULLETは「飾らない本物のモーターサイクリング」の象徴として、世代や国境を越え、ライダーたちを結びつけてきました。それはまるで心臓の鼓動のように、時代を超えて脈打ち続けています。

あらたに誕生したBULLET 650は、世の中がめまぐるしく変化するなかでも決してそのルーツを忘れることはありません。シンプルで美しいボディライン、そして豊かな伝統を受け継ぐディテール。すべてがこのBULLETシリーズの本質です。

BULLET 650は、そのもっとも力強い姿です。高性能な排気量650cc並列2気筒エンジン、スチール製チューブラー・スパインフレーム、手描きのピストライブ、象徴的なタイガーランプ、ヴィンテージ調の立体ウイングバッジ、そして堂々たるライディングポジション。そのすべてが、世代を超えて愛されてきたBULLETシリーズのDNAです。エンジンは滑らかな加速と力強さを両立し、6速ギアボックスとスリッパークラッチにより、リラックスしたクルージングからスポーティな走りまで自在にこなします。

BULLET 650はそのフォルムと性能が完璧に調和し、真の“オールドスクール”モーターサイクルとしての存在感を放っています。

※発売時期／価格：未定



<ロイヤルエンフィールドについて>

1901年の創業以来、ロイヤルエンフィールドは美しいオートバイを作り続けてきた二輪車ブランドです。そのルーツは英国にあり、1955年にマドラス(現チェンナイ)に製造工場を設立。以来ロイヤルエンフィールドは、インドのミッドサイズ・モーターサイクルセグメントの成長を牽引してきました。ロイヤルエンフィールドのモーターサイクルは、美しく、シンプルで親しみやすく、ライディングする楽しさに溢れた乗り物である。それは我々ロイヤルエンフィールドが、自らを『Pure Motorcycling/ピュア・モーターサイクリング』と呼ぶ由縁です。

ロイヤルエンフィールドのプレミアムラインナップには、クルーザーの「METEOR 350(メテオ・サンゴーマル)」、650パラレルツインモーターサイクルの「CLASSIC 650(クラシック・ロクゴーマル)」「SUPER METEOR 650(スーパー・メテオ・ロクゴーマル)」、「INT650(アイエヌティ・ロクゴーマル)」、「CONTINENTAL GT650(コンチネンタル・ジューティー・ロクゴーマル)」、アドベンチャー・モーターサイクルでは「HIMALAYAN 450(ヒマラヤ・ヨンゴーマル)」、アイコンックな「GOAN CLASSIC 350(ゴアンクラシック・サンゴーマル)」「BULLET 350(ブリット・サンゴーマル)」、「CLASSIC 350(クラシック・サンゴーマル)」があります。また我々は2024年に、新しいシティ&電動モーターサイクルブランド『FLYING FLEA(フライング・フリー)』を発表しました。それはモダンなデザインと先進技術を融合させた、都市型モビリティカテゴリーにおける我々の新たなチャレンジでもあります。

また我々ロイヤルエンフィールドは、世界各地でモーターサイクルイベントを企画しています。とくに、毎年11月にインド西海岸のリゾート地ゴアの美しいビーチに、世界中からロイヤルエンフィールド・ライダーが集まるイベント「Motoverse(モトバース)」や、ヒマラヤ山脈の高地を走る「Himalayan Odyssey(ヒマラヤン・オデッセイ)」が有名です。世界中の人々がロイヤルエンフィールドを走らせる世界同日開催のライディングイベント「One Ride(ワンライド)」も実施しています。

インドのトラック大手 Eicher Motors Limited(アイシャーモーターズ・リミテッド)の一部門であるロイヤルエンフィールドは、インドの主要都市に2000以上の店舗を構え、世界60カ国以上に850近い店舗を展開しています。また、ロイヤルエンフィールドは、英国のブランディングソープとインドのチェンナイに2つのテクニカルセンターを有し、インドの都市チェンナイ近郊のオラガダムとヴァラムヴァダガルに2つの最新鋭の生産施設を運用しているほか、バングラデシュ、ネパール、ブラジル、タイ、アルゼンチン、コロンビアの6ヶ所に近代的なCKD(コンプリート・ノック・ダウン)組立工場も有しています。

ロイヤルエンフィールドのブランドや製品に関する詳細は下記公式ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.royalenfield.co.jp>

全国のROYAL ENFIELD正規販売店は下記よりご確認いただけます。

<https://www.royalenfield.co.jp/dealers/>

本件に関するお問い合わせ先：ロイヤルエンフィールドジャパン(総輸入発売元:ピーシーアイ株式会社)

<https://www.royalenfield.co.jp>